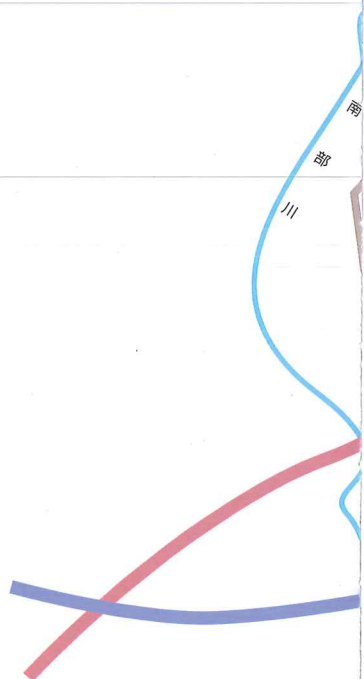
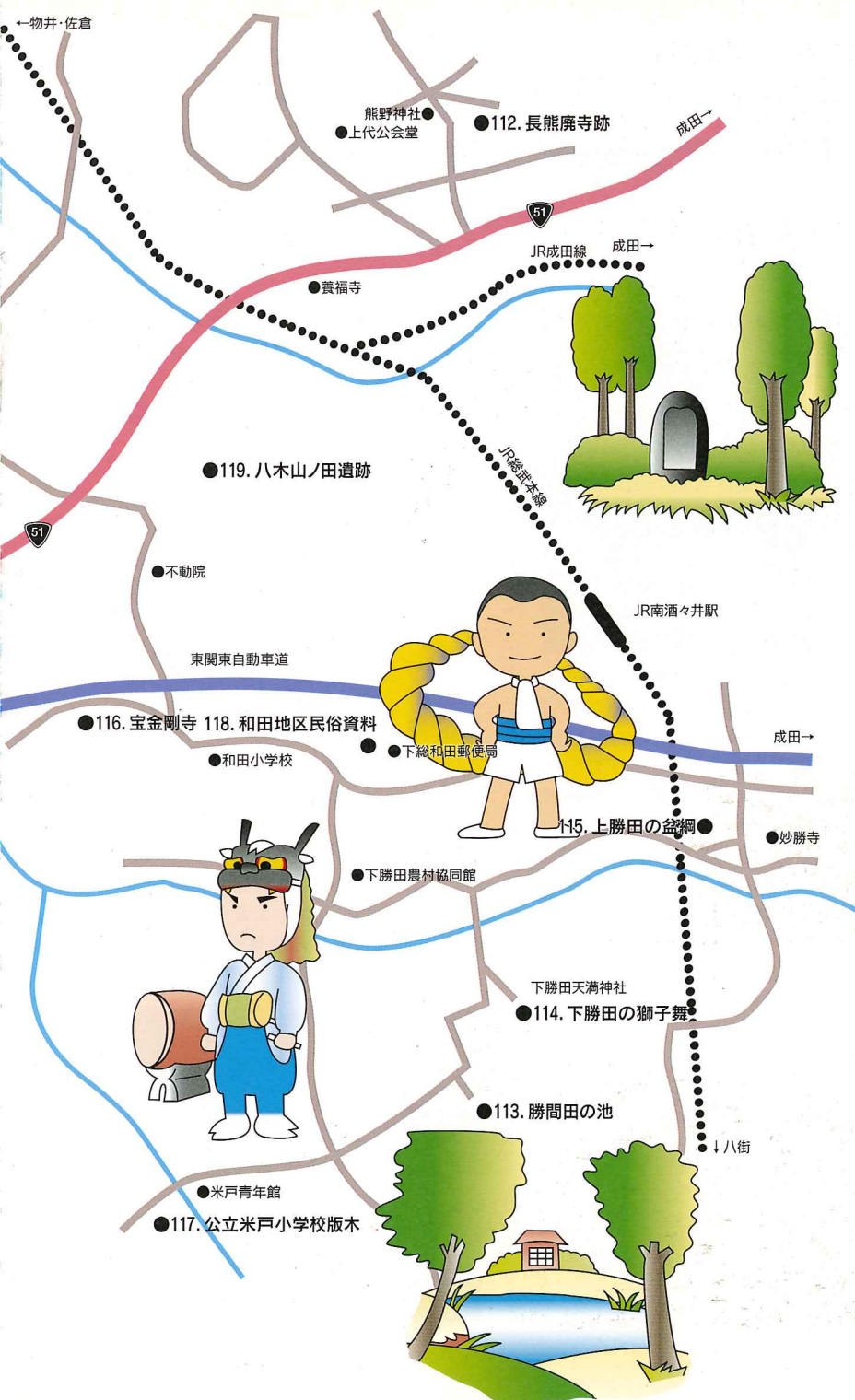


古くて新しい農業地帯

【和田地区】

	112. 長熊廃寺跡(長熊)	114
	113. 勝間田の池(下勝田)	114
	114. 下勝田の獅子舞(下勝田)	115
	115. 上勝田の盆綱(上勝田)	115
	116. 宝金剛寺(直弥)	116
	117. 公立米戸小学校版木(米戸)	116
	118. 和田地区民俗資料(八木)	117
	119. 八木山ノ田遺跡(八木)	117







112

ながくまはいじあと 長熊廃寺跡



長熊廃寺跡は長熊の五良神社境内地に位置しています。この場所は古くから瓦片が出土することで知られており、昭和26年（1951）に立正大学史学研究室を中心とする調査団により発掘調査されました。その結果、塔を東に、金堂を西に配した法起寺式の伽藍配置をもつ寺であり、白鳳期の様式を伝える八葉蓮弁重圓文縁軒丸瓦や忍冬唐草文軒平瓦等から奈良時代末の建立と報告されました。

昭和61年（1986）には千葉県文化財センターにより再調査が実施され、従来金堂及び講堂としていた遺構が疑問視され、伽藍配置そのものにも疑義が生じました。成果としては瓦、瓦塔の他に「高岡寺」の銘のある墨書土器が出土しました。当時この寺は高岡寺と呼ばれていたと考えられます。



113

かつまた いけ 勝間田の池

下勝田村の草創期から灌漑用水として利用されたと考えられている勝間田の池は、佐倉市の名勝地として知られており、嘉永3年（1850）に編纂された『下総名所図絵』にも記されています。

池の中程には厳島神社が祀られており、その傍らには、若者中によって次の歌碑が建てられています。

（右面） 為相卿

尋来てかつみるまゝに勝間田の
はなの蔭にぞ淋しかりけり

（正面） 西行法師

みずなしと聞ゝてふりにし勝間田の
池あらたむるさみだれのころ

（左面） 寂蓮法師

勝間田の池のこゝろは空しくて
こほりもみづも名のみなりけり

また、天保8年（1837）3月に次の歌碑も建立されています。

勝間田の池の桜はさくらにて

くもとおもえる水だにもなし

近年、周辺地区の開発が進んでいますが、地元の人々により手厚く保護されています。





114

しもかつた ししまい 下勝田の獅子舞



下勝田の獅子舞は、毎年7月に天満神社の境内で舞われます。この舞いは、五穀豊穡・家内安全・雨乞いなどの願を込めて奉納されるものです。

獅子は雄獅子・雌獅子・中獅子の三匹からなり、獅子舞は関東に多い風流系統の三匹獅子舞です。演目は、神楽舞・幣束舞・橋渡りの舞の3つの舞いがあり、それぞれ「ニワカゾメ」「雌獅子の舞」「中獅子の舞」「雄獅子の舞」からなっています。囃子方は篠笛と太鼓で構成されます。

幣束舞と橋渡りの舞の間には、16人の踊り手と大夫^{だゆう}と呼ばれる1人の唄い手により弥勒踊りが奉納されます。

三匹の獅子頭は古くから伝わるもので、雌獅子の後頭部には「元禄十二年(1699)六月吉日」の銘が刻まれています。この頭とともに獅子舞は市内に現存する数少ない民俗芸能のひとつとして、たいへん貴重です。



115

かみかつた ほんづな 上勝田の盆綱

上勝田で毎年8月13日の夕方から行われる盆綱は、お盆に仏様を藁の龍に乗せて迎える民俗行事です。

この行事は、地元の少年を主役に行うもので、8月7日の盆綱作りから始まります。家々から持ち寄った藁を撚って、径15cm、長さ6mほどの大きさの綱(龍)を作ります。そして、龍の形に撚る際に仏様が乗るという瘤を作ります。完成した盆綱は、7日から13日まで毎朝川に持って行き、水をかけて13日を待ちます。

当日の夕方、白パンツ・鉢巻き姿の少年たちは、綱をかかえて墓地に行き、瘤に古い墓石の破片をあてて、「乗ったか、乗らねか」と三遍繰り返して唱えながら六道塚を七回廻ったのち、同じようにして今度は「乗った、乗った」と三遍繰り返しています。その綱をみんなで抱きかかえて、村の各戸を廻り家々に仏様を送りとどけます。門口では「仏様を送ってきたよ」といって、家の庭で「ワッショイ」のかけ声とともに3回(新盆の家では7回)廻ります。最後に妙勝寺の境内で綱が千切れるまで廻り、千切れた綱を寺の前の川に流すと盆綱行事は終わります。





116

ほうこんごうじ 宝金剛寺



直弥にある皓月山宝金剛寺は、金剛界大日如来を本尊とする真言宗豊山派の寺院です。古くは宝金寺と号しました。のち長谷寺の末寺でした。

由緒によると、鎌倉時代初期の建仁3年(1203)に将軍源頼家が北条時政を奉行に命じ創建させたと伝えられます。開山は覚済僧正といわれています。

のち天正18年(1590)に徳川家康の家臣北条氏勝が岩富城主に封じられると、この寺を崇敬し、大檀那として数々の寄進をしています。宝暦元年(1751)の「宝金剛寺由来記」には氏勝が寄進した品々が記されています。

東福寺(佐倉市八木)を末寺とし、多宝院(直弥)、広福院(佐倉市大篠塚)、宝寿院(佐倉市天辺)、西光寺(佐倉市下勝田)、円明院(佐倉市上別所)、正乗院(佐倉市高崎)、円林寺(佐倉市寒風)、不動院(八木)を門徒としていました。



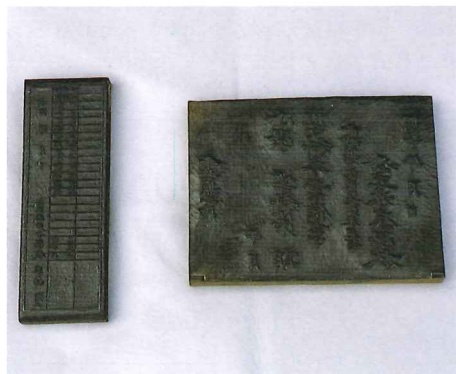
117

こうりつこめどしょうがっこうはんぎ 公立米戸小学校版木

公立米戸小学校は明治7年(1874)4月に米戸勢至堂(私塾)を仮校舎として開校されました。この公立米戸小学校で使用された2枚の版木が現在も残っています。1点は卒業証書、もう1点は学業成績表の版木で、いずれも桜の木で作られています。この版木の存在は、明治5年(1872)の学制施行直後の佐倉市の教育史を考えるうえで貴重です。

その後、公立米戸小学校は明治20年(1887)に廃校になりますが、和田地区における教育活動に先駆的役割を果たしました。

和田地区の小学校は、明治41年(1908)4月に和田尋常小学校として統合されるまで、下勝田尋常小学校、上勝田尋常小学校、寒風尋常小学校の3校が存在していました。



文化財の見学はマナーを守って。

市内のあちこちに残されている建造物や史跡、天然記念物などの文化財。これらはかけがえのない貴重なものですから、マナーを守って見学しましょう。また、今まで保存・管理してきた所有者や地元の方々のご苦勞にも敬意を表したいものです。

①許可・了承を得て

見学の際は、最初に所有者の許可を得るのが基本です、特に団体で見学する場合は、事前に了承を得るようにしましょう。また写真撮影、拓本は許可を得てから行いましょう。

②所有者の都合を最優先

社寺では行事が執り行われている場合もありますので、迷惑とならないように注意しましょう。

③見学以外は遠慮しよう

見学以外の用件（トイレ、電話の借用など）で所有者の手をわずらわせないようにしましょう。

④周囲の環境にも気を配って

ゴミは必ず持ち帰り、草花や畑の作物、昆虫などを傷つけたり採取したりしないでください。



※文化財の公開について

県や市の文化財に指定されている物件でも、保存や管理の面から、公開されていないものもあります。（個人所有の文化財は、基本的に非公開です。）



118

わだちくみんぞくしりょう 和田地区民俗資料 (和田ふるさと館歴史民俗資料室)



和田地区は佐倉市の東部に位置し、稲作、やまと芋の栽培、施設園芸、畜産が盛んな地域です。この地域は古くから農村として発展してきましたが、昭和30年代ごろからは生活の近代化の影響を受け、伝統的な生活様式や農業などの生産様式に変化があらわれました。

このような時代の変化の中で、地域の文化を伝える資料として小学生の学習に役立てるため、昭和45年（1970）から和田小学校PTAにより民俗資料の収集が開始されました。

集められたのは、稲作・畑作・養蚕・はた織りなどの民具300点余りでした。このうち代表的なものが和田ふるさと館歴史民俗資料室に展示されています。

開 室 時 間 午前9時～午後5時
(入室は午後4時30分まで)

入 室 料 無料

休 室 日 月曜・祝日・年末年始

問い合わせ 和田公民館 498-0417



119

やぎやまのたいせき 八木山ノ田遺跡

弥生時代中期・古墳時代前期・奈良時代の集落跡で、高崎川南岸の海拔約36mの台地上に位置します。平成6年（1994）に佐倉市教育委員会が、平成8年に(財)印旛郡市文化財センターが発掘調査を実施しています。

平成8年の調査では、奈良時代の^{たてあなじょうい}竪穴状遺構から^こ仏面墨書土器が出土しました。この土器は、土器の甕の胴部に手慣れた筆使いで^{はつめんぼくしよどき}仏の顔が描かれたもので、竪穴状遺構の北西角にその他の土器や須恵器とともに置かれていたようです。墨で人の顔を描いた土器（人面墨書土器）は、他の遺跡でも出土していますが、仏の顔を描いた例はここが初めてです。昔の人は仏像を見て、それを甕に写し取ったのでしょうか。このことから当時の人々が神仏に祈りをささげていたことが窺われます。

